

11月になりました。

10月末からバザーの準備開催と怒涛の様な1週間、11月も4日すぎちゃってました。

10月31日は久我山館の地域バザーでした。そのご報告はまた次回に・・・

11月1日2日そして3日と3日間連続で2つの「学祭」に行きました。

子どもの学校見学や入学式・卒業式にも「エー！いいや！バス」といかなかった私としては大学の門をくぐるのはなんと35年ぶり。ましてや学祭をブラブラとダルダに信じてみるのではなく参観者として存在してしまうのは1年生の秋以来、40年ぶりでございます。

まず第一印象・とにかくどちらも、校舎がきれい。

立て直しているから当たり前はと言えば「上場企業のオフィスビルみたい」で、

誘導の踊り場で寝ている奴をみる事なんか絶対ない感じだなーと、

「学祭」の雰囲気ですが、学祭につきものの奨励物もキチンと場所が決められ、自己主張少なく、規律通りに配られ、公共施設での「市民祭りの」雰囲気。一般的で、穏やかで、少しそっけない。嫌でもグイグイと食らいついてくる様な「あの独特の感じ」がないのであります。時代が違いますもんね！

私の頃、は右傾左傾がそれぞれ強く主張なさっており、大学講堂の建物が傾斜が傾斜し、まじめに校舎に出ている友から2時間後公園通りで聞いて驚いたりする時代。

でもさすが「学祭」。21世紀でも20歳前後の若者が集う熱気はしっかり感じました。

冬の会費費用をタコ焼きで稼ぐスキー部。普賢のせいか上手いか下手か今一判別できない経営学部etc.それぞれそれぞれの部やサークルが各母校の雰囲気をかもしつつ回っていました。

なにより感心したのは、各大学の実行委員の誠実さです。終日ゴミ箱の前に立ち、分別を呼び掛け、捨てた人への「ありがとうございます」。多道橋の誘導、運搬車庫の出入管理、市民祭りでもここまで徹底してやらないです。今の学生の公共性の高さには目を見張りました。

そんな子ども達（失礼！）のなかでも「びっくりボン」なのがボランティアサークルの存在です。もちろん昔も手話や片親の子の遊び合い手などしている人がいました。でもちょっと違うんです。「私こそお世話させて頂いております」という重い感じではなく

「自分たちこれ結構楽しいです」と軽やかなんです。ネパール行ったり目の不自由な方の決断を

作ったり・・・そんな学生が集える場所が学内にあるなんて・・・思いもよらなかった。

明治大学和泉ボランティアセンターはそんな「それぞれの楽しみ方・余暇の過ごし方」を仲間とつながりながら過ごし、集える居場所でした。

ダーツで遊んで、普賢体験・子どもと竹トンボづくりはさみでストッキングを切りながら話しをしてくれた・・・

多くの皆さま、35年位したらまた思い出してください。

そんな楽しく軽やかな学生たちと

そのまとめ役として先を進む激進な女性に

大きなエールをささげます。



私、長州リキみたいな老害のわるい摸れたダミ声になったけど気分は小春日和。

11月21日にはプロップクの文化祭です。「お祭り」ばかりの11月の始まりです。